

## 職員のみなさんへ一言メッセージ (第124回)

恐ろしい巨大地震から早くも3ヶ月が過ぎ、入所者処遇については、通常通りになりましたが、屋根を始め、建物関連の工事は全くの手づかずの状態です。

また、「あそ上寿園」についても、不落後の設計業務が停滞しています。

2つの業務ともに、人をお願いしている仕事なので、自分ではどうにもなりません。精神衛生上、本当に良くありません。

しかし、ジックリ待つのも仕事かもしれません。

さて、前にも書かせて頂いたと思いますが、二宮金次郎が薪を背負い読んでいる本の名は「大学」という2500年前の中国の本であります。

中国では人の上に立って、良い影響を与える人(徳のある人)を大人(たいじん)と言います。その大人になるための教えが書いてあるのが「大学」であります。

その大学の冒頭に「大学の道は明德を明らかにするにあり」という一行があります。明德(めいとく)を辞書で繰ってみますと、①公明な徳行、②天から受けたすぐれた徳性(小学館新選国語辞典)、①明らかな徳行、天から受けた、くもりのない本性(三省堂新明解漢和辞典)となっています。

ここでは、明德を「天から受けたすぐれた徳性」とでもして置きましょう。

この「明德」を明らかにして行く、学んで行くことが、大人になる道であり、次に、その学んで行くための手法が書かれ、それを「格物致知」と言います。

この「格物致知」という言葉を辞書では、①物の道理を深くきわめて知識をみがくこと(小学館新選国語辞典)、①具体的な事物に対する観察と沈潜とによって知見を深めること(三省堂新明解漢和辞典)、①事物の道理をきわめて、自己の知識を高める(三省堂新明解国語辞典)としています。

私が今までに読んだ本の大意では、「格物」は物に徹底的にぶつかって行く、平たく言えば、徹底的に実践して行く、「致知」は知識をきわめて行く、これも平たく言えば、学んだことを「知恵」にまで高めて行く、そうして行くことで「明德」が明らかになって来るということです。

私には、表面的な薄っぺらなことしか、書く力が有りませんが、法人名の「致知」は、この「格物致知」から頂いた言葉であり、「格物致知」すなわち、物事を実践して行く中で得た知恵をもって、自分の「明德」(天から与えられた特性)を明らかにして行くという、人生を生きて行く上での最も大事な言葉であります。

ところで、この話をして行くと、森 信三先生という教育家がおられ、「人間はこの世に生まれ落ちた瞬間、全ての人」が天から封書をもっているその手紙を開いたら、『こういう生き方をしなさい』と書いてあるので、その封書を開き、人生を有意義に生きなさい」と言われていることが思い出されました。

私どもは、天が自分にどんな使命を与えているかを、日ごろの仕事や生活の中から、探って行かねばなりません。ただ、調子の良い心が浮ついた時には、決してそんな大事なものには出会えません。苦しい時こそ、真の価値を持ったものに出会えるのかもしれませんが。熊本地震という考えられないような事象を体験した今こそ、天が自分に与えた使命を覚る良い機会かもしれません。

平成28年7月25日 真和館施設長 藤本和彦